

馬をめぐる情勢

令和 2 年 5 月

農林水産省

生産局畜産部畜産振興課

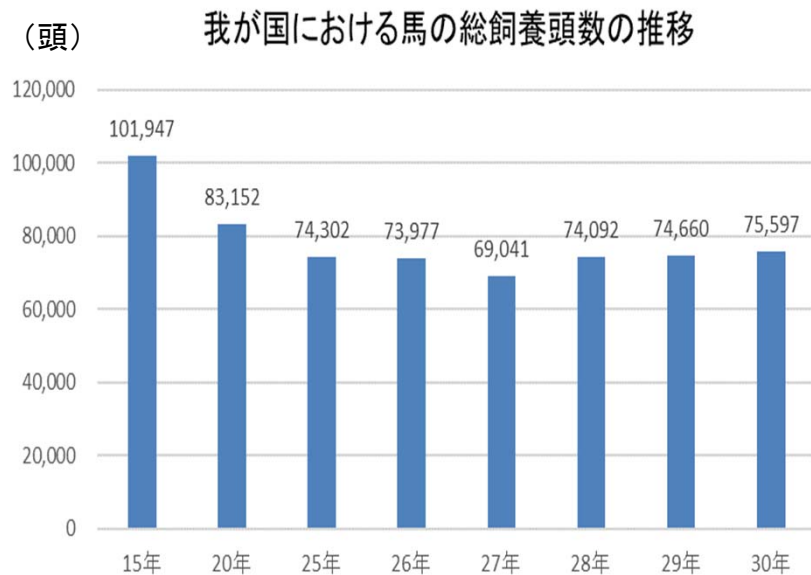
目次

(1) 飼養頭数の推移	1
(2) 重種馬の飼養状況	2
(3) 軽種馬（競走用馬）の飼養状況	3
(4) 乗用馬の飼養状況	4
(5) 日本在来馬の飼養状況	5
(6) 登録頭数の推移	6
(7) 馬肉関係	7
(参考) 重種馬の繁殖成績の現状	8

(1) 飼養頭数の推移

- 馬の総飼養頭数については、近年横ばいで推移しており、平成30年は約76,000頭。
- 重種馬については、減少傾向で推移したものの、近年下げ止まりがみられたが、平成30年は再び減少し4,978頭。
- 軽種馬（競走用馬）の飼養頭数は、近年ほぼ横ばいで推移してきたが、平成30年には増頭し43,210頭。

(単位:頭)



年次	軽種馬 (競走用馬)	重種馬	小格馬	在来馬
平成5年	72,779	28,378	—	3,361
10年	64,120	22,412	—	2,892
15年	56,088	15,057	1,610	2,301
20年	45,299	8,888	1,178	1,860
25年	41,367	6,208	624	1,879
26年	40,794	5,880	672	1,817
27年	40,867	5,105	669	1,817
28年	41,120	5,052	625	1,749
29年	41,959	5,115	597	1,708
30年	43,210	4,978	562	1,654

資料：軽種馬（競走用馬）：「軽種馬統計」（（公財）ジャパン・スタッドブック・インターナショナル（公社）日本軽種馬協会）
 重種馬・小格馬・在来馬：（公社）日本馬事協会調べ
 乗用馬・肥育馬：（公社）中央畜産会調べ（平成26年は参考値）
 平成25年以降の合計頭数：動物衛生課「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等」

(2) 重種馬の飼養状況

○ 繁殖供用種馬及び育成馬の当歳馬は前年を下回り、国内合計は4,978頭と減少。

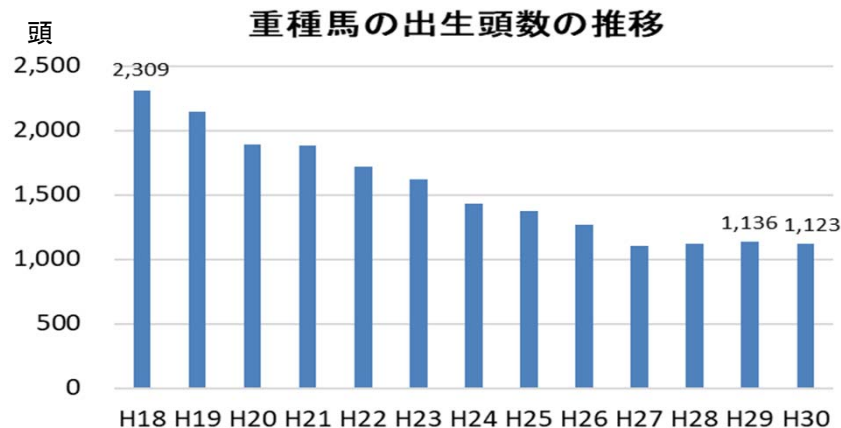
(単位:頭)

年次	繁殖供用種馬		育成馬		競走馬 (ばんえい)	国内合計	輸入 繁殖用♂
	種雄馬	種付雌馬	当歳馬	1歳馬			
平成5年	546	11,780	7,479	6,679	1,633	28,117	0
10年	402	8,522	5,240	6,276	1,772	22,212	4
15年	397	5,895	3,730	3,711	1,324	15,057	0
20年	246	3,607	1,890	2,040	1,105	8,888	0
25年	232	2,367	1,378	1,364	867	6,208	0
26年	233	2,300	1,272	1,309	766	5,880	0
27年	184	1,896	1,101	1,208	716	5,105	0
28年	200	1,956	1,120	1,046	730	5,052	0
29年	205	1,989	1,136	1,064	721	5,115	3
30年	158	1,856	1,123	1,079	762	4,978	0

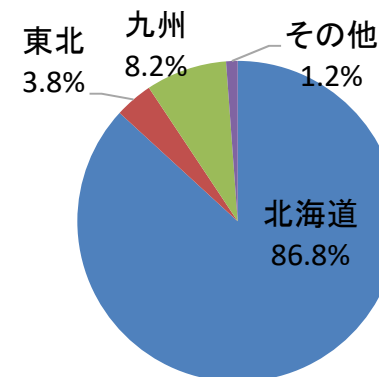


ペルシュロン種
体高が170cm程度、体重
800～1,100kgの大型馬。

- 資料: 1.繁殖供用種馬、当歳馬は(公社)日本馬事協会調べ
2.育成馬の1歳馬は前年の生産頭数(当歳馬)に0.95を乗じた推定頭数
3.競走馬は地方競馬全国協会「登録馬主及び登録馬に関する統計資料」
4.輸入頭数は畜産振興課調べ。平成23年輸入頭数: 2頭



重種馬の 地域別出生頭数割合(H30)



ブルトン種
体高が160cm程度、体重
700～1,000kgの大型馬。
幅、後躯が充実。

(3) 軽種馬（競走用馬）の飼養状況

- 飼養頭数は、近年増加傾向にあり、平成30年は約43,000頭。
- 主産地は北海道。〔約80%は日高地方〕
- 輸入頭数は、平成30年には前年を上回り約300頭。

(単位:頭)

年次	繁殖供用種馬		育成馬		競走馬		国内合計	輸入			
	種雄馬 ①	種付雌馬 ②	当歳馬 ③	1歳 ④	中央競馬 ⑤	地方競馬 ⑥		繁殖用	妊娠馬	競走用	合計
平成5年	767	17,191	12,591	12,230	6,418	23,582	72,779	44	68	215	327
10年	506	13,169	10,241	10,322	6,612	23,270	64,120	82	66	345	493
15年	389	11,499	8,774	8,599	7,802	19,025	56,088	40	96	226	362
20年	284	10,268	7,378	7,156	8,096	12,117	45,299	31	85	157	273
25年	230	9,322	6,843	6,495	7,926	10,551	41,367	34	59	115	208
26年	230	9,272	6,904	6,501	7,846	10,041	40,794	48	70	118	236
27年	227	9,404	6,858	6,559	7,890	9,930	40,868	70	37	146	253
28年	234	9,492	6,907	6,515	7,977	9,996	41,121	67	51	129	247
29年	252	9,653	7,089	6,562	8,025	10,379	41,960	60	51	153	264
30年	241	9,911	7,250	6,735	8,142	10,931	43,210	63	54	186	303

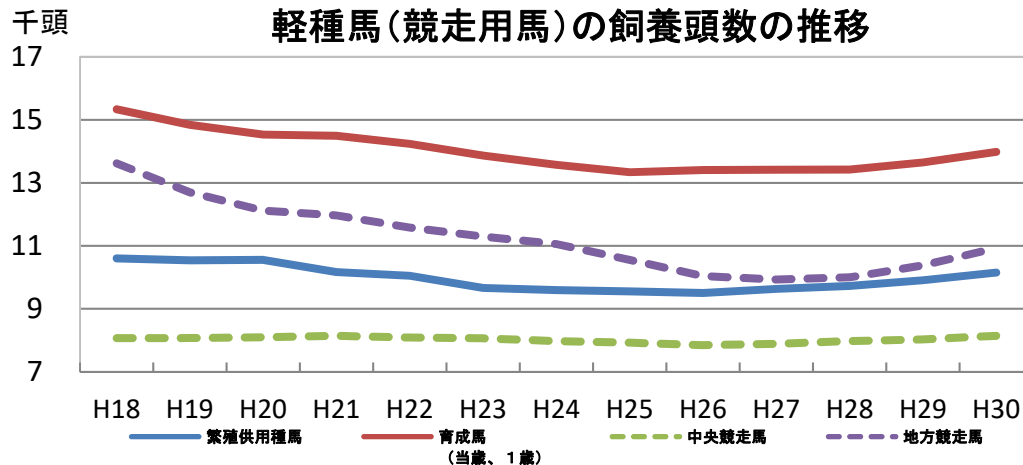
資料:1.①②③は、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル・(公社)日本軽種馬協会「軽種馬統計」

2.④は、前年の生産頭数(当歳馬)に0.95を乗じた推定頭数

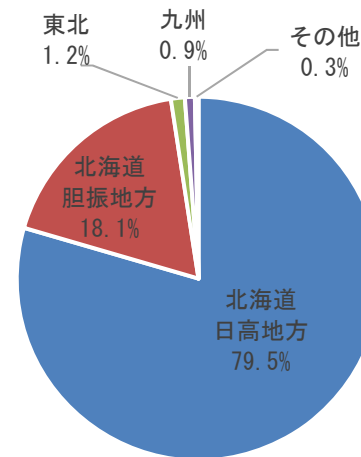
3.⑤は、日本中央競馬会調べで、各年の翌年の1月1日現在の在籍馬頭数

4.⑥は、地方競馬全国協会「登録馬及び登録馬に関する統計資料」で、各年末の馬登録頭数

5.輸入頭数は、(繁殖用)畜産振興課調べ、(競走用・妊娠馬)(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル



軽種馬（競走用馬）の地域別出生頭数(当歳馬)割合 (H30)



サラブレッド種
体高平均160~162cm
18世紀に競走用としてイギリスで品種改良された軽種馬。乗馬目的にも使用される。

(4) 乗用馬の飼養状況

- 飼養頭数（繁殖共用種馬＋育成馬）は近年減少傾向であったが、平成30年は増加に転じた。
- 乗系馬の主産地は、北海道（77%）、岩手県（15%）。
- 輸入頭数は、近年200頭前後で推移。主な輸入国はベルギー、ドイツなど。

<乗系馬>

(単位:頭)

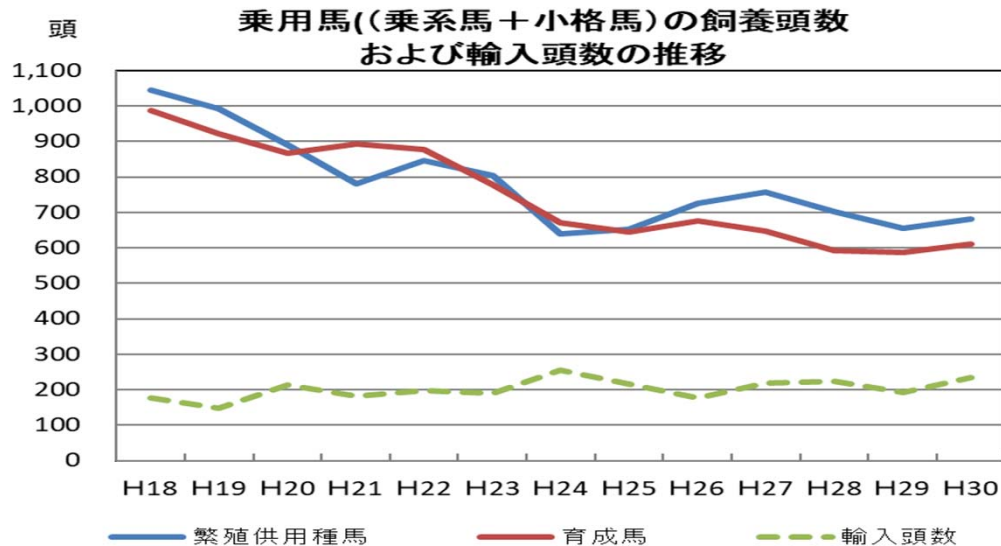
年次	繁殖共用種馬		育成馬		総飼養頭数	輸入頭数
	種雄馬	種付雌馬	当歳馬	1歳		
平成5年	13	141	74	59	9,797	170
10年	25	269	101	136	11,646	165
15年	56	348	187	194	13,755	131
20年	32	287	127	135	15,829	197
25年	61	298	172	142		206
26年	66	328	174	163		176
27年	66	336	169	165		218
28年	74	294	142	161		221
29年	69	271	169	135		186
30年	69	318	183	161		216

<小格馬>

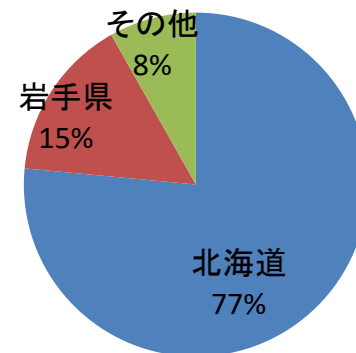
(単位:頭)

年次	繁殖共用種馬		育成馬		総飼養頭数	輸入頭数
	種雄馬	種付雌馬	当歳馬	1歳馬		
平成5年	121	1,092	433	1,394	0	15
10年	123	875	637	742	0	22
15年	132	694	432	304	1,610	17
20年	88	484	321	285	1,178	17
25年	72	221	166	165	624	10
26年	77	255	182	158	672	0
27年	76	279	141	173	669	0
28年	77	258	156	134	625	3
29年	78	236	135	148	597	6
30年	79	216	139	128	562	18

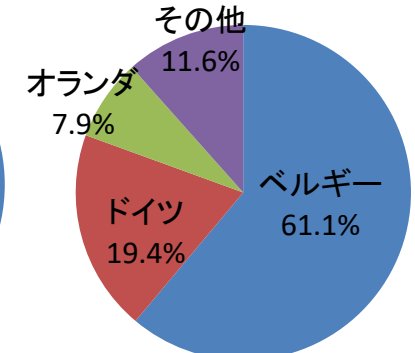
- 資料: 1.繁殖共用種馬、当歳馬、小格馬については(公社)日本馬事協会調べ
 2.育成馬の1歳馬は、前年の生産頭数(当歳馬)に0.95を乗じた推定頭数
 3.乗用馬の総飼養頭数は、(公社)中央畜産会「家畜改良関係資料」。H23以降はデータなし。
 4.輸入頭数は、畜産振興課調べ



内国産乗用馬(乗系馬)の
地域別出生頭数割合
(H30)



乗用馬(乗系馬)の
主な輸入国の割合
(H30)



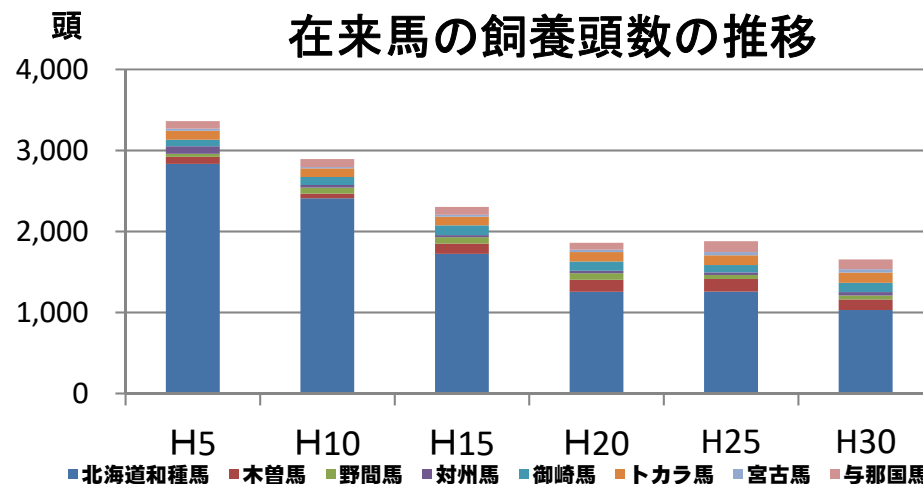
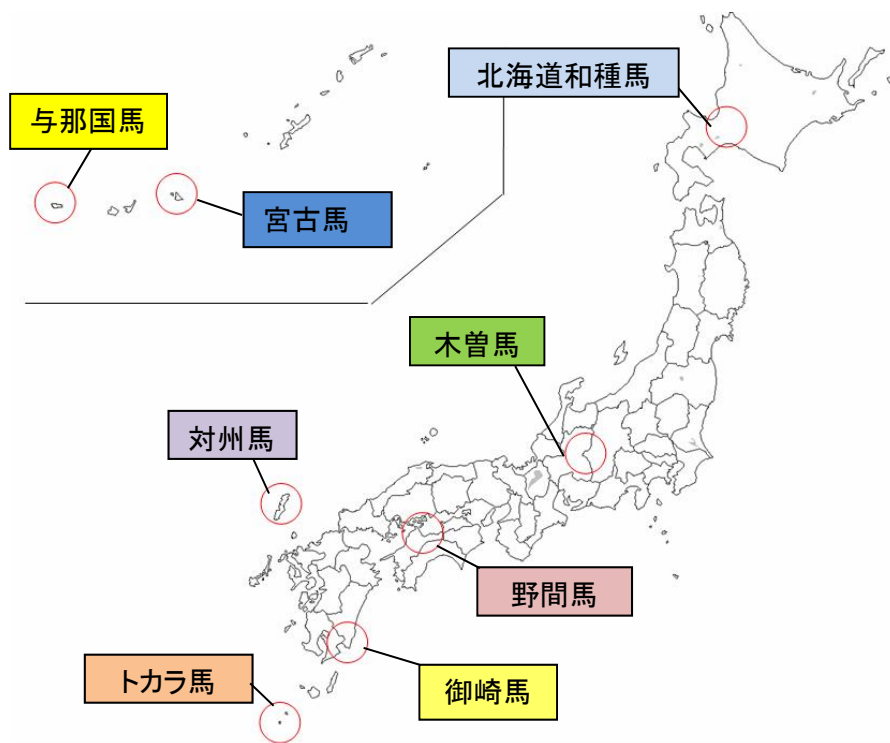
(5) 日本在来馬の飼養状況

○ 8品種ともほぼ横ばいか微減傾向。

(単位:頭)

	北海道和種	木曾馬	野間馬	対州馬	御崎馬	トカラ馬	宮古馬	与那国馬	計
飼養地域	北海道	長野県 (木曾地域)	愛媛県 (今治市)	長崎県 (対馬)	宮崎県 (都井岬)	鹿児島県 (トカラ列島)	沖縄県 (宮古群島)	沖縄県 (与那国)	
飼養頭数	1,029	131	50	40	116	125	43	120	1,654

資料:(公社)日本馬事協会調べ(H30)(各保存団体からの報告による)。なお、保存地域以外の飼養頭数を除く。



北海道和種馬



宮古馬

(6) 登録頭数の推移

- 軽種馬（競走用馬）
登録頭数は、飼養頭数の減少に伴い減少していたが、27年度以降増加傾向。
- 重種馬
登録頭数は、飼養頭数の減少に伴い減少傾向。
- 乗用馬
登録頭数は、平成15年度に新たに登録品種を追加したこと（日本スポーツホース種等）により一時期増加したが、近年は横ばい。

(単位:頭)

年次	軽種馬（輸入馬を除く）			重種馬			乗用馬（小格馬を含む）		
	血統登録	繁殖登録		血統登録	繁殖登録		血統登録	繁殖登録	
		雄	雌		雄	雌		雄	雌
平成5年	12,628	76	1,686	5,994	77	1,262	219	5	33
10年	10,317	46	1,249	4,392	57	743	163	7	35
15年	8,461	53	1,192	3,097	63	692	196	8	31
20年	7,247	28	1,058	2,116	34	296	553	67	333
25年	6,700	21	964	1,382	24	224	478	27	86
26年	6,785	28	1,033	1,282	41	220	427	23	88
27年	6,735	34	938	1,209	17	197	406	32	84
28年	6,822	35	951	1,167	28	226	395	36	90
29年	6,966	33	1,056	1,151	36	216	413	31	86
30年	7,170	31	1,121	1,085	24	246	412	23	106

資料:軽種馬(競走用馬)は(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、重種馬・乗用馬は、(公社)日本馬事協会が登録団体

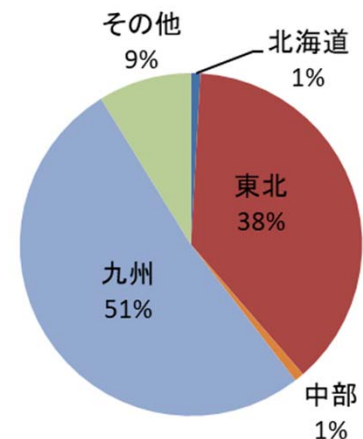
(7) 馬肉関係

- 我が国における馬肉の供給量は近年はほぼ横ばいである中、国内生産量はと畜頭数の減少に伴い減少傾向。
- 馬肉の主産地は、九州地方が全体のほぼ半数、東北地方が約4割を占める。
- 輸入馬肉の価格は上昇傾向にあるが、供給量を確保するために輸入量が増加傾向。

(単位: 頭、トン)

年次	と畜頭数	国内生産量 (A)	輸入量 (枝肉換算) (B)	供給量 (A+B)
10年	20,422	7,830	19,894	27,724
15年	19,039	7,459	10,769	18,228
20年	15,003	6,053	8,276	14,329
25年	13,592	5,465	6,828	12,293
26年	13,474	5,379	6,890	12,269
27年	12,466	5,113	7,719	12,832
28年	10,240	3,670	8,036	11,706
29年	9,807	3,916	8,401	12,317
30年	9,761	3,850	8,874	12,724

馬肉の地域別生産量割合(H30)

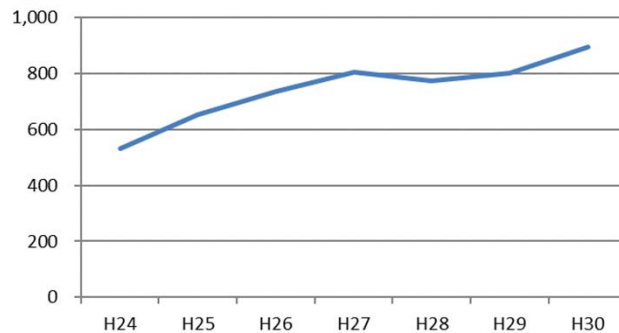


資料: 農林水産省統計部「畜産物流通統計」

資料: 1.と畜頭数、国内生産量は農林水産省統計部「畜産物流通統計」
2.輸入量は財務省関税局「貿易統計」を枝肉換算(部分肉重量÷0.65)



kg/円 輸入馬肉の価格の推移

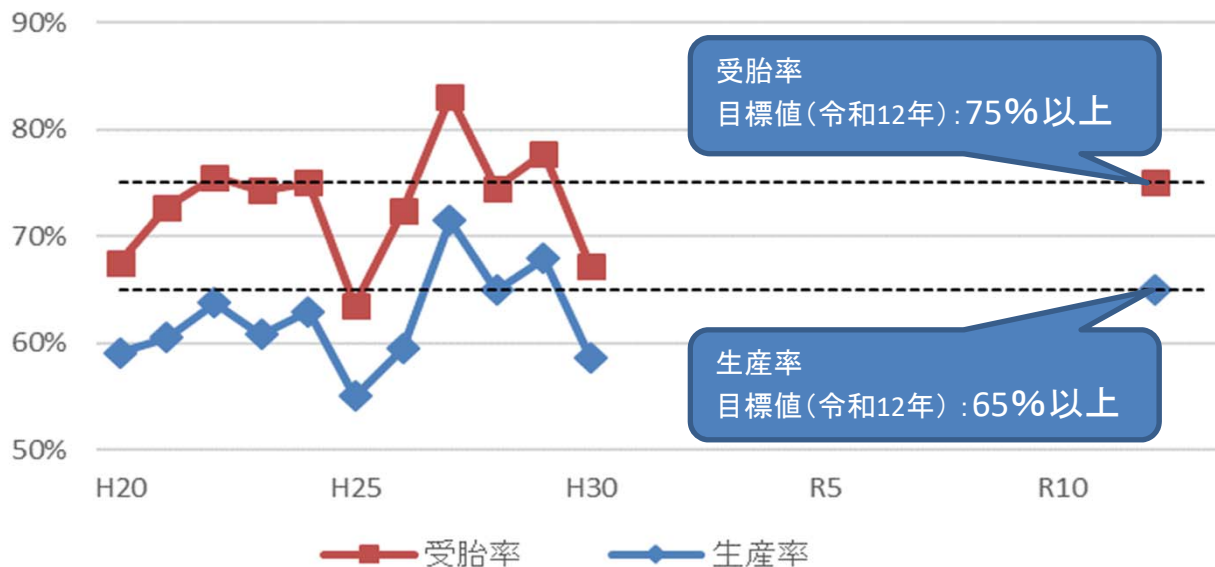


資料: 財務省関税局「貿易統計」

(参考) 重種馬の繁殖成績の現状

- 受胎率、生産率ともに増減を繰り返している。また、流死産率は近年、高まっていたが、平成26年からは低下傾向。受胎率と生産率の差は、平成9年頃から広がり、近年は10%程度で推移。

生産率と受胎率の推移



流死産率の推移

種付け年	H5	H10	H15	H20	H25	H26	H27	H28	H29	H30
流死産率	7.7%	11.2%	7.2%	11.4%	12.2%	20.0%	15.4%	13.1%	11.7%	10.3%

資料:(公社)日本馬事協会調べ